



タウンミーティング in むつざわ開催 12/4

大塚晃一(千葉県防災士)
 千葉県防災士連絡会(日本防災士会賛助会員団体)

12月4日(日)、千葉県睦沢町「道の駅むつざわ つどいの郷」にて千葉県防災士連絡会主催による「タウンミーティング in むつざわ」が開催された。近隣の地域防災リーダーと当会の防災士が集い、多彩な交流イベントにより、地域の防災なかも意識を高め合った。

千葉県防災士連絡会のオリジナルイベントである防災タウンミーティングは、日本防災士会会員の活動理念である『地区防災力の向上に努め、防災協働社会の実現に寄与する』を实践する事業でもある。

タウンミーティング in むつざわ案内

開催地の千葉県睦沢町は、豊富な天然ガスが埋蔵されており、国内最大の天然ガス田「南関東ガス田」の天然ガスを利用した、公営都市ガス事業の供給地域になっている。

会場の「道の駅むつざわ」は、令和元年房総半島台風で千葉県内に大停電が発生した中で、地元産出の天然ガスや太陽光による自家発電を行い、地域の防災拠点として貢献した施設である。自前で敷いた地中電線など最新鋭システムにより電力供給を行い、地域住民に灯りや冷房、携帯電話の充電、併設温泉施設のシャワーを無料提供し、町内外の延べ1000人以上が利用したことは広く知られている。

今回、この会場に集ったのは、令和元年房総半島台風で大規模停電や断水の中、自治体の災害対策本部メンバーとして参加した千葉県防災士連絡会所属の防災士や、防災士と協働で地域の応急対策活動に東奔西走した地域防災リーダー達、28名(コロナ禍で人数制限)である。

午前8時、地域を大停電から救った道の駅の防災施設を見学。研修会場「つどいのハコ」で、道の駅の担当者からこの施設の特長である「熱電併給型マイクログリッド」の説明を受けた後、担当者をガイド役に施設のバックステージツアーが始まった。

まず最初に、道の駅に隣接する多世代交流住宅街「スマートウエルネスタウン」の見学からスタート。自営線が地中化された街路には、停電しない環境配慮型オール電化の多様な間取住宅が並ぶ。

次は道の駅内の防災広場へ移動。災害時にベンチが竈として利用ができるおなじみの「かまどベンチ」が配置された公園である。

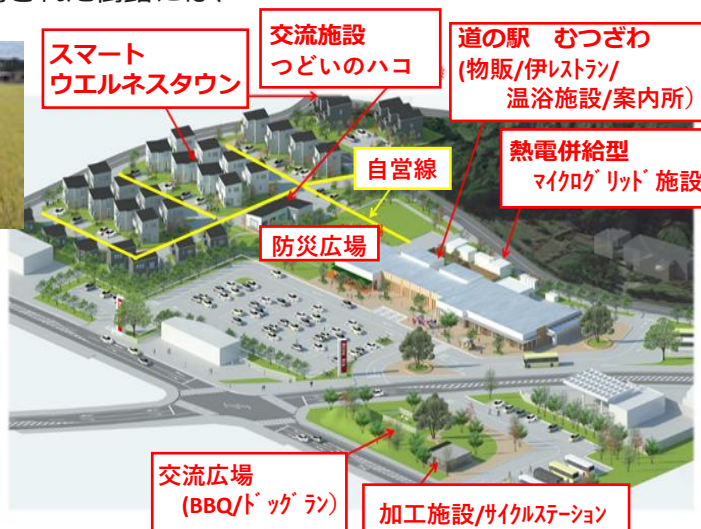
防災広場に隣接する「防災倉庫」を見学の後は、いよいよ、今回の視察研修の目玉、複数の発電設備、蓄電設備などから、自営線を使って、需要施設へ電力を供給する分散エネルギーシステム施設、「マイクログリッド」の見学である。



「スマートウエルネスタウン」



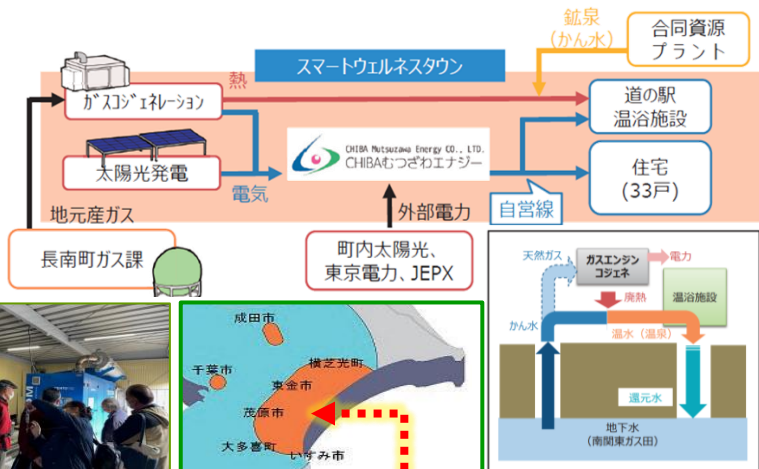
「かまどベンチ」



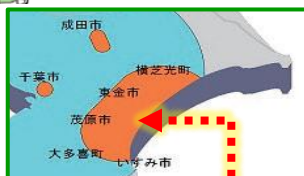
「むつざわスマートウエルネスタウン」拠点形成事業(睦沢町)

道の駅むつざわが防災拠点である最大の特徴は、エネルギー自立化による低炭素社会の実現と防災性を兼ね備えていることである。地元産水溶性天然ガスの活用、太陽光発電、そして太陽熱温水器の併設により『エネルギーの地産地消』を実現し、温室効果ガスの削減への貢献に寄与している。

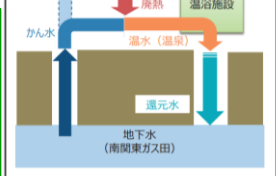
ちなみに、千葉県防災士連絡会は、千葉県が推進するSDGsパートナー団体としては、先駆けて認証された防災団体であり、今回の研修は他の防災団体のお手本として企画された研修である。



ガスエンジン発電機



南関東ガス田採取地域



地産地消のエネルギー供給

昼の休憩時間は、道の駅むつざわにある、イタリアンレストランや道の駅の名物弁当ほかで各自で昼食。物販コーナーでは、TV番組で評判の「干し芋」(施設のコージェネを利用した加工品)や地元の物産品を購入するなど、今回のタウンミーティング開催にご協力をいただいた施設にささやかな地域貢献を行った。

午後の最初のプログラムは、千葉県防災士連絡会今井副理事長と多賀理事による講演会「防災教育の今」である。二人は、元教育委員会教育長や校長として、地域で防災教育に尽力してきたメンバーである。

- ・ 防災教育は 地域を知り、地域を学び、地域に生きる「ふるさと教育」
- ・ 防災教育は 自立した一人の人間としての総合的な力である人間力
- ・ 防災教育は 人と人がつながり 社会をつくる社会力
- ・ 自然災害のハザードを理解させ、自然の恵みも教え、地域のサポーターを育むのが防災教育



講演会「防災教育の今」

など、防災教育の概要、位置付け、意義、目的、成果、取り組み事例など、防災教育の第一人者ならではの話に、参加者は頷き、熱心にメモを走らせていた。事例の紹介では、これまでに千葉県防災士連絡会が当該地区の学校で行った数々の防災授業の紹介とともに、こどもたちの感想文も紹介され、改めて防災士としての本懐を感じた時間であった。防災教育は、10年後に地域を支える大人をつくり、20年後には地域の防災文化をつくる礎であることを、参加者全員で共有できた講演会であった。

講演会後は、参加者が車座になって、防災について自由に話題を投げ合う千葉県防災士連絡会名物の「防災談笑会」である。共に房総半島台風で地域で活動したなかま同士の初めての顔合わせ。防災士資格有無レベルを超えた地域防災の担い手が集い、防災教育への意見交換やこれから必要な備えなど、広域連携のあり方、地域の学校と郵便局の連携など多彩な意見が交換された。

今回のタウンミーティングは、開催地域からの特別なはからいで見学や施設利用が許可された。これまでの当会の地域活動が結実した記念日となった。



会場：道の駅内「つどいのハコ」



防災談笑会の愉快的90分